

高齢者の交通安全に尽力

4/17 県交通安全運動推進本部顕彰受賞報告

交通安全に尽くした個人、団体を表彰する平成24年度長野県交通安全運動推進本部顕彰が県庁で行われ、市内では新屋区老人クラブ「新屋三ツ矢会」（穂高有明）が受賞しました。昨年度会長の征矢野茂門さんが4月17日、本庁舎を訪れ、宮澤市長に報告しました。同会では、高齢者の事故防止のため、交通安全教室などを長年行っています。征矢野さんは「続けてきて当たり前の活動だと思っています。今後も仲間と共に続けていきたい」と話しました。



飯沼飛行士の功績を讃えて

4/14 第14回安曇野紙ヒコーキ競技大会

安曇野紙ヒコーキ競技大会（同実行委員会主催）が4月14日、穂高会館で開かれました。この大会は、1937（昭和12）年に東京-ロンドン間を飛行し、当時の世界記録を作った豊科南穂高出身の飯沼正明飛行士を顕彰するため、旧豊科町時代から毎年、行われています。この日は3種目の競技に県内外から33人が参加し、飛行時間を競いました。参加者の小柏陽大朗くん（中1・川上村）は「今回は記録が良くなかったけれど、紙飛行機を飛ばすことがとても楽しいです」と話してくれました。

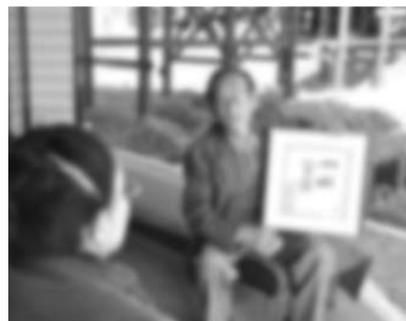
全力を尽くし、たすきをつなぐ

4/29 第23回長野県市町村対抗駅伝競走大会ほか

第23回長野県市町村対抗駅伝競走大会（長野陸上競技協会等主催）が4月29日、松本平広域公園陸上競技場を発着点とする8区間38.545キロのコースで行われました。

この大会には、県内各市町村から57チームが参加。1区と2区は中学生が、3区から8区は一般男女がたすきをつなぎました。今回で8回目の出場となる安曇野市は、それぞれの選手が全力を出し切り11位の成績でした。また、この日は、第9回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会も同競技場周辺、4区間6キロの周回コースで行われ、安曇野市は見事7位に入賞しました。

県市町村対抗駅伝競走大会に出場した選手たちは、今後も練習を継続し、本年11月に開催される長野県縦断駅伝競走大会などへの出場を目指します。



茶席を楽しみながら百楽桜を満喫

4/13 田淵行男記念館百楽桜まつり

百楽桜まつりが4月13日、田淵行男記念館で開催されました。百楽桜は、田淵行男が遺した言葉「一山百楽（一つの山にもいろいろな楽しみ方がある）」にちなんで名付けられた桜で、百楽桜まつりは4年前から桜の開花時期に合わせて開催されています。記念館ワサビ田テラスには、裏千家の西村社中による茶席が設けられました。

会場では、桜の研究者で、百楽桜の寄贈者の草間勉さん（大町市）が「記念館から向かって右の桜の枝ぶりや雰囲気は、田淵先生を思わせる」と、田淵行男とのエピソードや桜について話し、茶席を賑わせました。

友人と今回初めて記念館を訪れたという二宮尊子さん（穂高有明）は「きれいな景色を眺めながらいただく抹茶は格別でした」と抹茶と桜やワサビ田が作る春の風景を楽しんでいました。



清沢洌「暗黒日記」の原本を寄贈

5/2 清沢洌の遺稿119点を寄贈

穂高北穂高出身の外交評論家・清沢洌（1890-1945年）の「暗黒日記」の遺稿など119点が5月2日、次女の池田まり子さん（東京都渋谷区）から市に寄贈されました。清沢洌は、新聞記者を経て、外交評論家として活躍し、第2次大戦時下で当時の日本の政治、戦争政策を自由主義の立場から批判しました。寄贈された資料は、当時の状況を記し、戦後出版された「暗黒日記」の原本や吉田茂、石橋湛山などの当時の有力政治家と交わした書簡などです。市では、今後の一般公開に向け、資料整理を進めていきます。



新社会人 決意を新たに

4/22 新規学卒就職者研修会

市と市商工会は4月22日、新規学卒就職者研修会を安曇野スイス村サンモリッツで開きました。本年度は市内34社に102人が入社。研修会には63人が参加しました。宮澤市長は「何事にも挑戦し、企業の発展や地域活動に力を発揮してほしい」と激励しました。

市内の精密機械工場に就職した小坂啓さん（穂高柏原）は「部品ができあがるのが楽しく、将来は一人で何でもできるようになりたいです」と話してくれました。また、式の後は、交流会や市内企業の人事担当者による講演も行われました。